

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業計画（例）

【学 年】 小学校第4学年

【単元名】 ごみのゆくえ（12時間扱い）

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力、判断力、表現力等〕
・廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解すること。	・処理の仕組みや再利用，県内外の人々の協力などに着目して，廃棄物処理のための事業の様子を捉え，その事業が果たす役割を考え，表現する。

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり：「私たちの県」において，長野県の位置や地形，主な産業の分布，交通網や主な都市の位置などに着目して，県の特色について考えた。

働かせる見方・考え方：廃棄物処理や再利用の仕組み，人々の連携に着目し，事業の役割を考える。

段階	□学習問題（時間）	留意点
課題把握	1 身の回りには，どんなごみがあるのだろう。(1)	<p>気付きや疑問から問いを設定する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのごみや，ごみの出し方をもとに，単元の学習問題を立てる。
	単元の学習問題： 私たちが出したごみは，どこに行き，どうなるのだろう。	
課題追究	2 ゴミステーションに出されたごみは，どのように収集され，それぞれどこに行くのだろう。(1)	<p>予想から解決の見通しをもつ場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学や聞き取り調査の計画を立てる。
	3 清掃センターでは，燃えるごみが，どのように燃やされているのだろう。(2)	<p>見学や聞き取り調査，文献調査をする場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃センターを見学したり，職員の方から，聞き取り調査をしたりする場を設ける。 ・リサイクルの方法について，文献等で調べていく。
	4 埋め立てごみや資源ごみは，どのように処理されているのだろう。(2)	
	5 A市のごみをどうやって減らせばいいだろう。(1)	<p>新たな疑問について追究する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減量に興味をもてるように，A市のごみの量の変化のグラフを示す。 ・予想を基に，清掃センターや市役所の職員への聞き取りや，文献調査を行う場を設ける。 ・調査したことを発表し合い，自分たちのできる減量策を考える場を設ける。
	6 各自の予想を基に，清掃センターのKさんや市役所の担当の方に話を聞いたり，本やインターネットで調査したりして調べよう。(2)	
7 私たちができる減量方法について考えよう。(2)		
まとめ	8 単元の学習をまとめよう。(1)	<p>学習を振り返って表現する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ごみのゆくえ」と「減量策」の2点について，分かったことをまとめる場を設ける。
	<p>【ねらいを達成した子どもの姿】 私たちが出した燃えるごみは，B地区にある焼却場で燃やされています。そのほかのごみも，それぞれ違う場所に行って，埋め立てられたり，リサイクルされたりしています。でも，残念ながら，A市では，一人当たりのごみの量が県平均を上回っています。理由は，分別が不十分だったり，食品ロスが多かったりすることが考えられます。少しでもごみを減らせるよう，私も分別をしっかりとしたり，ものを大切に使用したりするなど，できることをしていきたいです。</p>	

次単元へのつながり：「郷土の発展に尽くす」において，地域の用水路を開拓したS氏の功績について調べる。